

■高校2年生の部 最優秀賞
この気持ちを忘れないで
弟子屈高等学校 若月 恵理さん



私たちは、日々、たくさんのコミュニケーションをとっている。

私は、人間ほどこミュニケーションの方法が多様なものは他にならぬと思う。その中でも、「会話は特に素晴らしい方法だ」と思う。人間は、様々な進化をしてきた。その事実は、小学校の社会科や、中学・高校の日本史の授業で習った。いつだったか、先生が授業中に語ったことがある。人間は進化するまでの間、他の動物たちとほとんど変わらなかった。しかし、今では、決定的な違いがある。それは何だと思っか、という質問から先生の話は始まった。

第39回 児童生徒 読書感想文コンクール

平成25年度に行われた児童生徒読書感想文コンクールの最優秀作品を紹介しています。

よゆうな気がする。私にはそれが何なのか、さっぱりわからなかった。クラスの中では、調理をするようになったとか、服を着るようになったという類の答えがいくつが出たけれど、先生はなかなか首を縦に振らなかった。暫くして、クラスから答えが出尽くしてからの、その違いとは何なのかを教えてください。

それは、発明することだった。自然にあるものをそのまま使うのではなく、手を加えて新しい何かにする。そうして人間は進化してきたと、先生は語った。人間の発明の中でも、「言葉」の発明は画期的なことだったと思う。自分の意志を、相手に伝えるのは、言葉を使えば、とても簡単なことだ。だから、言葉は素晴らしいと思う。自分の思いを、相手がすんなり理解してくれると、嬉しさを感じる。家族や友達と会話をするのは、楽しいと思う。

その嬉しさや、楽しさを感じられるのは、人間が、言葉を発明してくれたおかげなんだと、先生の話聞いて感慨にふけったことがあった。けれど、私は、こんな感慨にふけったことも、先生が話をしたこと、すっかり忘れてしまっていた。どこか、最近では、家族と会話することを面倒だと感じることもさえる。何か質問されても、言葉にするのが億劫で、曖昧な返事だけを返すこともあった。そんな時、私は記憶の中からすっかり忘れ去られていた先生の話、思い出さずきつかけとなった小説を読んだ。主人公は、彼女もなく、正月を一人きり

で過ごしていた二十八歳の大学院生、近藤裕喜。

ある日、葉書をたすため郵便ポストへ向かった近藤は、不思議な現象を目撃する。なんと、降り積もった雪の上に、足跡だけが次々と現れたのだ。実はこの時、近藤の世界は、もう一つの平行世界と偶然にも繋がっていて、平行世界の現象が雪の上だけに跡になって残っているようになっていた。近藤は、平行世界の少女とコミュニケーションをとることに成功する。少女は事故で母親を失くしていたが、近藤の世界では、少女が事故で命を落とし、母親が生きていた。近藤は、雪に残る跡を頼りに、二つの世界の母と子を引き合わせる。再会した親子は、雪が融けてしまつまでのほんの少しの間、雪に文字を書くことで会話をする。

私は、再会した親子が、雪にいちいち文字を書かなければコミュニケーションをとれないことが、とても歯痒かった。そして、雪が融けてしまえば、もう二度と関わることが出来なくなるのも悲しいと思つた。もし、この親子が、会話が出来る状態で再会できれば、自分の思いを伝えることはもっと簡単だったにちがいない。しかも、現実にはもっと残酷だ。小説のように、死んだ人と話す機会は二度とない。だから、大切な人が亡くなってから悔やんでも意味がない。時間を戻すことは不可能なのだから。きつと私たちは、自分が生きている時間をもっと大切にしなければならぬと思つた。人間の時間には限りがある。その限りは、人それぞれだ。私は、家族や友達が死んでしまったらと考えると、はいいらなかった。そして、一番

最初に思ったことは、もっと話せばよかったということだった。

人がいつ死ぬのかわからないし、事故や災害の原因がわからない。別れは突然訪れるものなんだと思う。それを受け入れることは、きつと出来ないだろうけれど、私は少しでも後悔を残したくないと思つた。友達とのくだらない冗談話も家族とのどうでもいいような日常会話も、全て大切だと思えた。それは、携帯電話やパソコンを通してメールのやりとりよりも大切なことかもしれない。

自分の思いを自分の声で伝える。行為としては簡単でも、最近では行動に移すことが難しい。限られた時間で、どれほどの会話が出来るのか、わからないけれど、これからこの思いを忘れずに生きることができたなら、私が死ぬとき、後悔することは少ないだろうと思う。

書名『箱庭図書館』 著者 乙一

だから、大人になっても、どうかこの気持ちを忘れないで欲しい。

保育園・幼稚園 保育料の1/3を助成

町では、子ども・子育て支援として、また子どもを預けて働きたいというニーズにお応えするために、町内保育園・幼稚園の保育料の1/3を助成します。

対象は、保護者の方などが実際に納めている(納めることになる)保育園の保育料(月額)、幼稚園の入園料と保育料(月額)です。助成の方法などは各園児の保護者の方などにお知らせしますが、これを機に保育園・幼稚園を利用したいと思われる保護者などの皆さんは、個別にご相談ください。

- ▶相談窓口
- 役場福祉こども課児童福祉課係(町立保育園に関する相談) ☎482-2921 (課直通)
- おひさま保育園 ☎482-2444
- 川湯保育園 ☎483-2357
- 摩周丘幼稚園 ☎482-2315
- 奥春別森の保育園 ☎482-4820

問い合わせ先/役場福祉こども課児童福祉係 ☎482-2921 (課直通)

75歳以上の方全員が対象です

バス・ハイヤー料金・自家用車燃料費助成の申請受け付け中

町では4月から、高齢者の皆さんの積極的な社会参加や健康保持を図り、生きがいのある生活を支援することを目的に、バス・ハイヤーと自家用車燃料費の助成事業を行っています。

- ▶対象者/平成26年4月1日現在、町内に住民登録している満75歳以上の方。
※従来の家族構成による制限は廃止しました。
- ▶助成内容/阿寒バス(株)・(有)摩周ハイヤーを利用するとき、町内指定店で自動車用ガソリン・軽油を購入するとき使用できる3,000円相当の補助券を交付します。
- ▶申請方法/対象となる満75歳以上の方には別途、4月に助成事業のご案内を送付しています。補助券の交付を希望する場合は、同封の申請用はがきに必要事項をご記入の上、お近くの郵便ポストに投函するか、役場福祉こども課または川湯支所の窓口へ提出してください。今回申請をされた方については、来年以降は申請をしなくても、毎年度初めに補助券を送付します。

問い合わせ先/役場福祉こども課社会福祉係 ☎482-2921 (課直通)

新聞紙の捨て方

新聞を毎日購読されているご家庭では、毎月相当量が排出されることと思います。新聞紙は、町の指定ごみ袋を使わずに出すことができます。適当な大きさに折りたたんで束ね、ひもで十文字にしっかりとしばりましょう。



新聞に折り込まれているチラシは、一緒に束ねて出して差し支えありません。

サイクルのすすめ



普段、何気なく捨てているそのごみ。きちんと分けば資源になるかも? ごみ袋代がお得になる資源ごみの分別を覚えて、地球にも家計にも優しくなりましょう!

問い合わせ先/役場環境生活課環境係 ☎482-2934 (課直通)